

# 特集

# “移住”という、選択。

## 私が匝瑳市を選んだ理由

### 家

族そろって「こんにちは」と出迎えてくれたのは、今年春、匝瑳市へ移住してきた遠山宗さん。「ようやくイメージ通りの古民家を見つけたことができました。見た瞬間、夫婦で『これだ』と思いましたね」と、念願の古民家での生活を楽しんでます。以前は会社勤めで身を粉にし

て働いていたという遠山さん。子どもとの時間を大事にした生活をしたい」との妻・あやさんからの言葉をきっかけに、生きがいを重視した生活を目指し退職。その後、「言葉には人を和ませる力がある」と気付き、筆文字のタッチを独学で習得して、今は心理カウンセラーの資格を生かしながら「筆

文字セラピストたんたん」として活動しています。

### 毎日が充実している

サーフィンが趣味で、吉崎浜を時々訪れていた遠山さんが、匝瑳市に移住することになったきっかけは、SOSA PROJECTとの出会い。「米作り体験や里山活動などで匝瑳市へ通い続け、そこで地元の人からこの家を紹介してもらったんです。越して来てからは、地域の皆さんが気に掛けてくれ、野菜をお裾分けしてくれるなど良くしてもらっています」と経緯を説明してくれました。

## 古民家暮らしで見つける幸せ

### 遠山宗さん

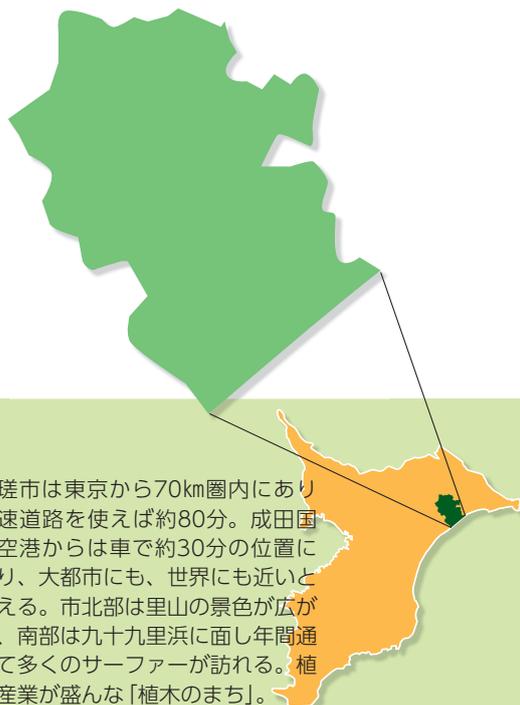
木更津市出身、東小笹在住。妻のあやさんと長女の凜ちゃん、長男の慎くんの4人暮らし。今年3月に移住し、心理カウンセラーの資格を持ち筆文字セラピストとして活動中。

「匝瑳市は環境も良く、不便に思ったことはないですね。長女が来年少小学生になります。子育ての面でも、小規模校ながらの良さがあると思っています。あることの幸せ、をかみしめています」と話す遠山さん。自宅に招いた友人からも家の

自宅離れの2階がアトリエ。心に響くメッセージを筆文字で書き上げる。



雰囲気大好評だそうで、「友人から『幸せそうなのが見て取れる』と言われます。毎日が充実していますよ」。寄り添うあやさんも「朝、鳥のさえずりで目覚めるなんて幸せですよ。こんなこと都会ではないですよ」と笑顔です。



匝瑳市は東京から70km圏内にあり高速道路を使えば約80分。成田国際空港からは車で約30分の位置にあり、大都市にも、世界にも近いと言える。市北部は里山の景色が広がり、南部は九十九里浜に面し年間通じて多くのサーファーが訪れる。植木産業が盛んな「植木のまち」。

### 田舎への移住がアツい

近年、都市部を離れて田舎での暮らしを希望する人が増えています。

定年退職をきっかけに“第2の人生”を過ごすため出身地または出身地近くに帰る動きの他に、若い世代を中心として、環境に優しい暮らし（ロハス）や、ゆったりとした暮らし（スローライフ）の実現を目指す「田園回帰」などの意識が高まってきています。国が今年1月に実施した意識調査によると、都市住民の3割が「農山漁村地域に移住してみたい」と回答しています（表1）。特に、20〜30歳代ではこれを上回

# こゝはととても贅沢なところ

**地** 元素材を使った手作り菓子と紅茶で、八日市「八菓一葉」をお出ししています



塩浦さん(写真中)と、母の一穂さん(左)、叔母の二美さん(右)。



喫茶スペースからは手入れされた日本庭園が眺められる。

「と来店者をもてなすのは、禅僧でありながらティーコーディネーターの資格を持つ塩浦卓介さんです。小高にある日本画家の元邸宅にティーサロン「〇△□」を、この秋オープンしました。

退職した母の最後の生活のことや、自身の新しいことに挑戦したいという思いから、北海道から九州まで移住先を探したという塩浦さん。「気候が温暖で首都圏からも近く、辺り過ぎないという条件に合致するこの物件にたどりつきました」と

言い、母の一穂さんと叔母でパティシエの二美さんと共に、昨年2月、匝瑳市へと移住。家族3人4脚で店を切り盛りします。越して来る前は「近所関係に心配もあったそうですが、「皆さん温かく受け入れてくれました。地域の人もおしやれをして紅茶を飲みに来てくれるんですよ」と笑顔で話します。

## 匝瑳市で意外な発見

「千葉は海のイメージが強かったけれど、市の北部は起伏に富んでいて、意外な発見でした。すばらしい谷津田の景色

**塩浦 卓介さん**  
埼玉県出身、小高在住。今秋オープンした里山の雰囲気を感じてアフタヌーンティーを楽しむサロン「〇△□」店主。胸にはティーコーディネーターのバッジが輝く。



に、「なぜ今まで匝瑳市を知らなかったんだろう」と思いました」と話す塩浦さん。これまでの生活と比べると水道やごみ収集などに関してギャップを感じることもあるそうですが、「ここには海に山、素晴らしい自然があります。そして何ととっても食べ物。新鮮な野菜、おいしい肉があって、とても贅沢ですよ」と声を弾ませます。「植木のまち・匝瑳ですから、お客様にはぜひ自慢の庭園を見てください」

る4割近くの方が同様の回答をしており、若者の農山漁村移住がブームになっていると言えます。

## 持続的発展を目指して

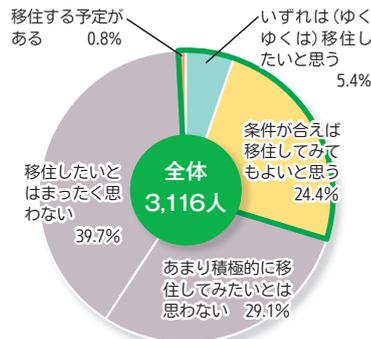
都市部から田舎への移住希望者が目立つ一方で、本市の人口は年々減少しています。

平成27年の国勢調査の結果では、同年10月現在の人口は3万7261人、前回(22年)調査と比較すると、2553人、6.4%減少しています。また、国立社会保障・人口問題研究所が25年3月に公表した推計によると、今後20年で約25%減と、人口減少が急速に進行することが予測されます(表2)。

## 田舎暮らしが魅力的

国の調査によると、都市住民のうち農山漁村地域への移住の意向がある人は全体で30.6%、若い世代ほどこの割合が高くなります。これは「田舎＝魅力がない場所」ということでは決していないことを表しています。

■表1 農山漁村地域への移住に対する考え

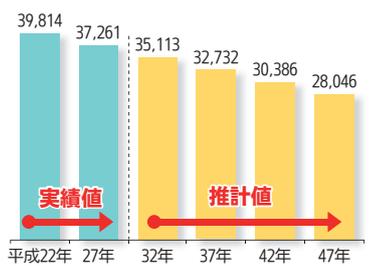


※「都市部の住民の意識調査」(総務省「田園回帰」に関する調査研究会。平成29年)から作成

## 人口減は待ったなしの課題

匝瑳市では、死亡が出生を上回る「自然減」に転出超過が重なり、人口減少への対応が待ったなしの課題となっています。市外からの転入を促進するためにも、「魅力ある田舎」として移住を希望する人たちを迎え入れる体制づくりが必要だと考えられます。

■表2 匝瑳市の人口の推移



※実績値は「国勢調査」(総務省統計局。平成22、27年)。推計値は「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所。平成25年)から作成。

本市が持続的な発展を遂げるため、外部からの人の流れを作りつつ魅力ある地域づくりを進める政策の展開が急務となっています。こうした中、人口減少の抑制や地域の活性化を図るために策定した「匝瑳まち・ひと・しごと創生総合戦略」(28年3月策定)では、四つの基本目標の一つ